ドキドキわくわく　あたらしい本

2026.8

えほん

おとまりペンギン

ねじめ正一　文　降矢なな　絵
童心社

ペンギンのペンちゃんが、なずちゃんのおうちにはじめておとまりにきました。でも、ペンちゃんは「あそびたくないの。おうちにかえりたいの」といって、おへやをめちゃくちゃにちらかしました。なずちゃんは、「だめえ!」とおしりをぶんぶんして、ペンちゃんのおしりにどーんしたら、ペンちゃんがすべっていきました。こうして、ふたりは“どーんなかま”になりました。

あたまにのったタコ

たしろちさと　作・絵　ジェニー・ギヨーム　原案
講談社

ぼくは、きょねんのなつやすみに、うまれてはじめてうみにもぐった。そして、かおをあげてみたら、あたまのうえにちいさなタコがのっていた。タコはひっぱってもはなれなくて、どんどんおおきくなっていく。それからは、がっこうにいくのも、ごはんをたべるのも、おふろにはいるのもタコといっしょ。でも、あるひプールにはいってみたら、タコがうごかなくなっちゃった！

低学年

なっちゃんとなつの空（そら）

深山さくら　作　下平けーすけ　絵
佼成出版社

小学（しょうがく）1年生（ねんせい）のかずまは、学童（がくどう）クラブでそだてている、キアゲハのようちゅう“なっちゃん”が大（だい）すきです。ところがある日（ひ）、しいくばこにいたはずのなっちゃんがいない！友（とも）だちのれんくんが、しいくばこのふたをしめわすれたんだとおもい「なっちゃんがしんだらどうするんだよ！」といってしまったかずま。でも、そのあと、かずまは、はっとしておもいだしたのです。

いいたいことがありすぎます!

工藤純子　作　武田美穂　絵
金の星社

となりのせきのひろきくんは、りんのことを「りんりん」とよびます。すずみたいでちょっといやだけれど、りんはだまっています。ある日、ふたりが行（い）っている学童（がくどう）で、おやつをつくることになりました。りんたちのはんがつくるのはサンドイッチです。ひろきくんは「サンドイッチなんておやつじゃない！」といやがります。先生（せんせい）も、お父（とう）さんもお母（かあ）さんも、「わがままいったらだめ」というけれど、いいたいことをいうのって、わがままなのでしょうか。

ドキドキわくわく　新しい本　2026.8

中学年

ドリーの魔法

パトリシア・クームス　作　PEIACO　絵
小宮由　訳
理論社

ドリーは小さい魔女です。大きい魔女のおかあさん、おてつだいのコックさん、黒ねこのギンクとくらしています。こんやはおきゃくさんをまねいてパーティーをします。おかあさんの買いものについていきたかったのに、おるすばんと部屋のかたづけをたのまれてがっかりです。ドリーはとてもちらかったじぶんの部屋をみて、かんがえました。かたづける「いいやりかた」を思いついたドリーは、おかあさんしかはいれないひみつの小部屋にしのびこみます。そこは、魔法の薬をつくる場所なのでした。

ブレイキン！
ーダンスでつながるぼくらー

あさだりん　作　ゆうこ　絵
文研出版

引っこし先でブレイキン講座に通い始めた四年生のジョーは、片手で逆立ちするジョーダンという大技ができるようになりたくて、仲良くなった同い年のケイトといっしょに練習している。

夏休みになり、いつもの練習場所にいってみると、外国人の女の子がいた。ふたりに気づいて場所をゆずってくれたと思ったら、とつぜんダンスバトルをしかけてきた。なぜだかすごくおこっているみたい。女の子はステップも技もすごくうまくて、ジョーが勝つためには、まだできたことはないけれどジョーダンをやるしかない！

高学年以上

図書館とねことゆうれいと

レベッカ・ステッド　作　ウェンディ・マス　作　三原泉　訳
偕成社

ある朝、町の広場に、「青空ミニ図書館」がとつぜん現れた。「本の持ちかえり自由。本の持ちこみも自由。気軽にどうぞ。」という手書きのメモつきで。五年生のエヴァンが持ちかえった二冊は、なぜか両方とも、二十年まえに原因不明の火事でなくなった「マーチンビル図書館」の本だった。エヴァンがミニ図書館を調べてみると、ほとんどの本がマーチンビル図書館の本で、おなじ日に返されていた。しかもその日づけは、図書館が焼けおちた日だった。ふしぎに思ったエヴァンは、図書館をめぐる謎を、親友レイフとともに調べ始める。ミニ図書館でもらった、『ミステリー小説の書き方』を読みながら。

ことば医者
ーおなやみ見つけますー

髙柳克弘　作　kigimura　絵
ポプラ社

風邪をひいたサトミは、早く治そうと、予約でいっぱいのかかりつけ医院をあきらめ、「鳥井医院」にでかけた。そこは、建物も先生も変わった病院だった。おまけに、言えない言葉がたまって「言葉カタマリ病」になっていると言われてしまう。そんな病気、聞いたこともない。

友達に言いたいことが言えないサトミ、兄の荒っぽい言葉に悩むトオル、友達に避けられているアヤメ、言葉を誤解されて話すのがこわくなったヒカリ。ことばに悩む子にむけた、「ことば医者」鳥井先生のふしぎな処方のお話です。